

新まんてんてらこや (第9回)

「南海トラフ地震の真実」の真実

あと10年!?

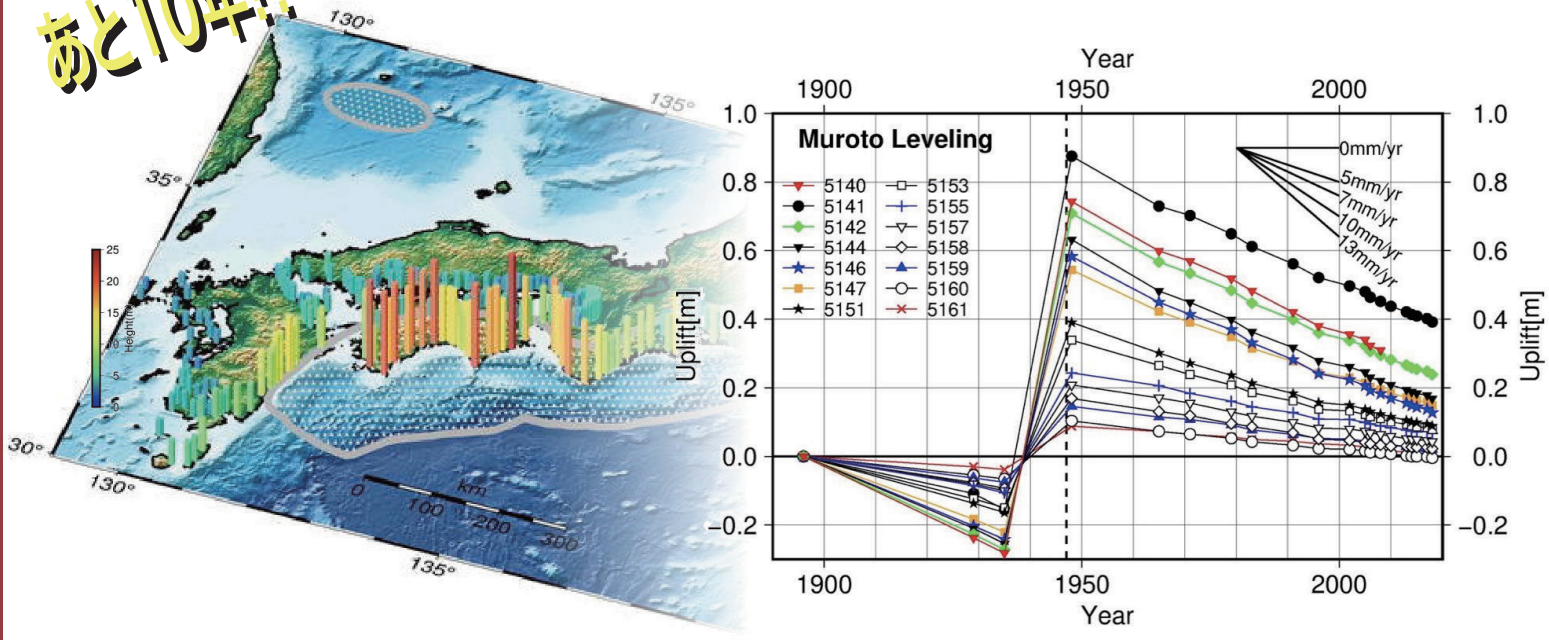


図: 安芸に対する室戸岬の水準点の高さの変動. 1946年南海地震時の隆起を解消するのは今世紀末? 背景は予想津波高(ケース3)

講師: 橋本学 京都大学名誉教授
元京都大学防災研究所長

[日時] 2025年9月7日(日)13時30分～15時

[会場] 京都大学 阿武山観測所および オンライン (Zoomによる)

[申込] NPOのホームページから事前にお申込下さい

<https://www.npo-abuyama.org/>

[参加費] 一般500円 (当NPO法人会員は無料) 申込時にホームページ上でお支払い頂けます

[アフタータイム] 講演終了後約30分間, 希望される方は講師や観測所メンバーと

講演内容やNPO活動についてお気軽にお話頂けます

[問合せ] contact@npo-abuyama.org

「新まんてんてらこや」は、地震学や防災学について、最新の研究成果や役立つ話題をわかりやすくお伝えする講演会シリーズです。阿武山観測所で以前開催していた公開講座を衣替えし、「NPO法人阿武山地震・防災サイエンスミュージアム」の主催で3ヶ月に一度のペースで開催します。多くのみなさまにご参加頂ければ幸いです。

最近の開催履歴:

第3回: 2023年12月5日 地震学におけるAI技術の利用について 京大防災研・直井誠

第4回: 2024年6月2日 徹底解説スロー地震 京大防災研・西川友章

第5回: 2024年9月1日 宇宙からの地殻変動精密計測とプレート間巨大地震の発生サイクル 高知大学名誉教授・田部井隆雄

第6回: 2024年12月1日 有珠山火山マイスターと阿武山サポーターの交流シンポジウム「減災のための科学とコミュニケーション」

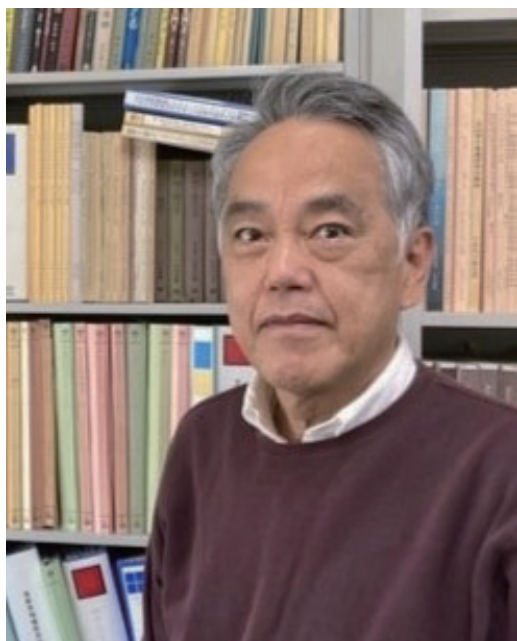
第7回: 2025年3月2日 地震だけじゃない! 地震計から探る未知の現象 京大防災研・山田真澄

第8回: 2025年6月1日 地震波で地下を覗く 京都大学名誉教授・澁谷拓郎

主催: NPO法人阿武山地震・防災サイエンスミュージアム

後援: 高槻市

新まんてんてらこや第9回 「南海トラフ地震の真実」の真実



講師紹介:

橋本 学 (はしもと まなぶ)

京都大学名誉教授

略歴:

1984年3月 京都大学理学研究科地球物理学専攻研究指導認定退学
1984年4月 建設省国土地理院入省
1984年11月 京都大学理学博士取得
1991年4月 科学技術庁研究開発局企画課防災科学技術推進室長補佐
1993年4月 建設省国土地理院地殻調査部地殻変動解析室長
1996年5月 // 観測解析課長
1997年4月 京都大学防災研究所地震予知研究センター助教授
2001年5月 // 教授
2019年4月 京都大学防災研究所長～2021年3月
2022年3月 京都大学定年退職, 京都大学名誉教授
2022年4月 東京電機大学理工学研究科
建築・都市環境学専攻特別専任教授～2024年3月
2024年4月 流通科学大学非常勤講師(現在に至る)

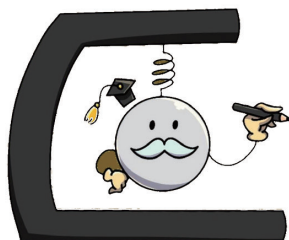
中央防災会議南海トラフの巨大地震モデル検討会委員,
同南海トラフ沿いの大規模地震の予測可能性調査部会委員,
地震調査委員会長期評価部会海溝型分科会(第二期)委員等を歴任

講演概要:

南海トラフ地震の長期評価の問題点を指摘した菊池寛賞受賞作「南海トラフ地震の真実」(小沢慧一著). モデルの根拠となった古文書の問題がクローズアップされましたが, 本質はそこではありません. 測地学・地形学の研究成果に基づき, 問題点を深掘りします.

NPO法人阿武山地震・防災サイエンスミュージアムは, 京都大学阿武山観測所がこれまで取り組んできた「地震サイエンスミュージアム」活動を, 「オープンサイエンス」運動としてさらに発展させたいと考え, 2021年4月に設立しました.

当法人は, 正会員, 準会員, 賛助会員を募集しています. どなたでもご入会いただくことが可能です. 会員には, 講演会の参加費が無料になるなど, 様々な特典があります. 詳しくはホームページをご覧ください.



特定非営利活動法人阿武山地震・防災サイエンスミュージアム

所在地: 〒569-1041 大阪府高槻市奈佐原 944

京都大学防災研究所阿武山観測所内



<https://np0-abuyama.org>